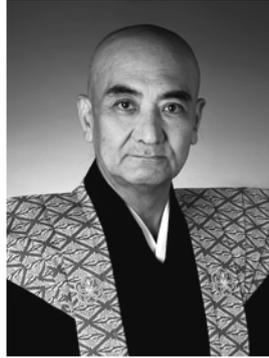


# ユネスコ無形文化遺産・人形浄瑠璃文楽

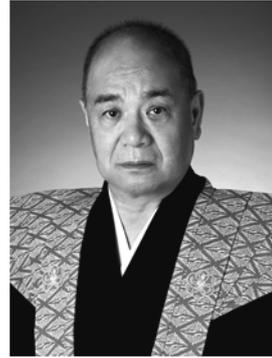
## 主な出演者



〈人形遣い〉桐竹勘十郎 (人間国宝)



〈三味線〉鶴澤清介



〈太夫〉豊竹若太夫 (切語り)

## 近松門左衛門作 『こもぢ やま ば 嬬山姥』 くるわ ばなし 廓嘶の段

### 解説

正徳二年(一七二二)大坂竹本座初演。山姥の化身が深山の四季折々の山巡りを見せる謡曲『山姥』は、自然の壮大さのうちに苦行の連続である人間界の業を伝える、極めて禅味の濃い作品です。この謡曲を借景として、近松門左衛門が数多くの説話で知られる源頼光とその四天王(渡辺綱、碓井貞光、卜部季武、坂田金時)の世界を盛り込んだ作品が、本作『嬬山姥』です。

横暴を極める清原右大将高藤らに対抗しようとする頼光のもとへ四天王が続々と結集する筋を軸に、激しい立廻り、親子の別れ、そして謡曲を模した山巡りなどが織りなされます。

### みどころ

#### 〈廓嘶の段〉

ご覧いただく場面は、頼光の苦闘と雌伏が始まる中で、後に頼光一党が集結し、反撃に転じる伏線に位置します。総じて荒々しいこの作品中にあつて異彩を放つ段で、源七の奏でる小唄、落ちぶれた紙衣姿の八重桐による華やかな廓の描写、はたまた「神武以来の恪

気諍ひ」といった面白おかしく誇張に満ちた痴話暗暁など、その明るさが際立っています。そうした明るさが権力争いの暗雲垂れ込める御殿の中で展開される、という趣向の妙が楽しさを一層かき立てるのです。

また、女方役者の荻野八重桐に眞屋源七と、実在した当時の人気役者を役名に盛り込み、さらに近松の好提携者であった名優坂田藤十郎の「しゃべり芸」を浄瑠璃に採り上げるなど、遊び心やサービス精神に富んだ趣向が凝らされています。

姫君が御簾内に入り、八重桐と源七の夫婦二人になると、高藤と頼光の対立に物語の焦点が移り、洒落た姿の源七が武士としての不真面目を自覚し無念の自害、その最期の一念が妻八重桐の胎内へと籠められ懐胎する、という怪異的な展開となります。この八重桐が転じた鬼女から誕生する金時が加わることで、頼光が高藤らを打倒する体制がついに整うのです。



司会(第一部)  
菅沼翔也



バス 名鉄東岡崎駅北口(ターミナル)から中岡崎行、約10分

バス停「岡崎市役所」下車 東へ約100m

徒歩 東岡崎駅より約20分(1.2Km)

せきれいホール駐車場30台

〔土・日曜日、祝日〕市役所東立体駐車場も利用可能250台/8:30～催事終了  
※駐車場には限りがありますので公共交通機関をご利用ください。

主催 一般社団法人 岡崎パブリックサービス

# 第2回 岡崎文楽公演 演配役表

公演日時 令和7年 10月18日(土) 開演 13時〜15時15分頃終演予定

公演会場 岡崎市せきれいホール (愛知県岡崎市朝日町3丁目36番地5)

## 三業(太夫・三味線・人形)の役割解説(約30分)

太夫・三味線の解説

人形の解説

太夫	豊竹 亘太夫
三味線	鶴澤 清公
人形	吉田 玉翔

実演「傾城反魂香」より

雅楽之介の注進

豊竹 亘太夫	狩野 雅楽之介
鶴澤 清公	吉田 玉翔

## トーク 近松門左衛門作品の魅力 (約20分)

桐竹 勘十郎	司会 菅沼 翔也
--------	----------

近松門左衛門 作

おぼ

廓

山

の段

姥

(人形役割)

口	豊竹 希太夫	沢瀉 姫桐竹 勘次郎
切	豊竹 若太夫	局 藤波 吉田 蓑一郎
ツレ	鶴澤 清允	煙草屋源七美は
		坂田蔵人時行
		荻野屋八重桐
		太田太郎 桐竹 勘十郎
		腰 元大 竹 勘
		組 子大 ぜ ぜ 介

囃子 望月 太明 藏社中

(三味線) 鶴澤清方

(人形部) 桐竹紋臣

桐竹紋秀	桐竹紋吉	吉田玉誉	吉田蓑太郎	吉田玉彦	吉田和馬
吉田蓑悠	吉田玉征	桐竹勘昇	豊松清之助	吉田和登	桐竹勘吉

(公財)文楽協会